

令和7年度 環境科学セミナー

無料

うみとつみの生き物

第一部 基調講演

「函館市マリカルチャー プロジェクト プロジェクトが目指すゴールと進展」

函館市マリカルチャープロジェクトとは、現在水産業が抱える諸問題に水産養殖研究や人材育成により立ち向かう函館発の取り組みです。

北海道大学大学院水産科学研究院 研究院長

都 木 靖 彰 氏

Takagi Yasuaki

1984 年北海道大学水産学部卒業、1990 年に同大学で博士号（水産学博士）を取得後、東京大学海洋研究所・大槌臨海研究センター助手を経て、2002年から北海道大学大学院水産科学研究科教授、2005年から北海道大学大学院水産科学研究院教授（組織改組）、2022 年4月より現職。現在は魚類コラーゲンの有効活用に関する研究を行うとともに、研究院長として、大学院水産科学研究院、大学院水産科学院、水産学部を牽引すると同時に、同大学地域水産業共創センター長を兼務、人材育成等函館・道南地域における地域振興に尽力している。



第二部 成果報告

●「環境中の放射性物質はどのように動くの？～再処理工場から排出される放射性物質の動きを探る～」

環境科学技術研究所 環境影響研究部 部長 植田 真司

●「六ヶ所村周辺の海洋放射能」

日本海洋科学振興財団 むつ海洋研究所 海洋研究部 主任研究員 小藤 久毅

日時

令和7年

9月12日(金)

13時30分～16時10分（開場13時）

第1部 基調講演（13:35～14:35）

第2部 成果報告（14:45～16:05）

会場

六ヶ所村文化交流プラザ
スワニー 大会議室1～4

青森県上北郡六ヶ所村尾駁野附1-8
TEL 0175-72-3400

お申し込み方法

参加をご希望の方は、裏面のはがきに住所、氏名等を記入して郵送またはFAXでお申し込みください。電子メール、ホームページからのお申し込みも可能です。

会場周辺図



お申し込み・お問い合わせ:公益財団法人 環境科学技術研究所 共創センター

TEL.0175-71-1240 FAX.0175-71-1270

〒039-3212 上北郡六ヶ所村尾駁家ノ前 1-7 [ホームページ](https://www.ies.or.jp/) <https://www.ies.or.jp/> [電子メール](mailto:kanken@ies.or.jp) kanken@ies.or.jp

主催：青森県（公財）環境科学技術研究所（公財）日本海洋科学振興財団

FAX 送信の場合 0175-71-1270へ

・本はがきで収集した個人情報、本報告会の運営に関する当研究所からのご連絡やご案内にのみ利用いたします。

(キリトリ線)

郵便はがき

0393290



上北郡六ヶ所村
尾駸家ノ前一番七

差出有効期間
令和7年9月11日
(切手不要)

公益財団法人
環境科学技術研究所
共創センター 共創推進課 行

環境科学セミナー (六ヶ所会場)

お名前	フリガナ	参加人数	人
ご住所	〒		
電話番号	() () ()		

放射線に関する事など聞きたいことをお寄せください。



(糊にアヒキ)

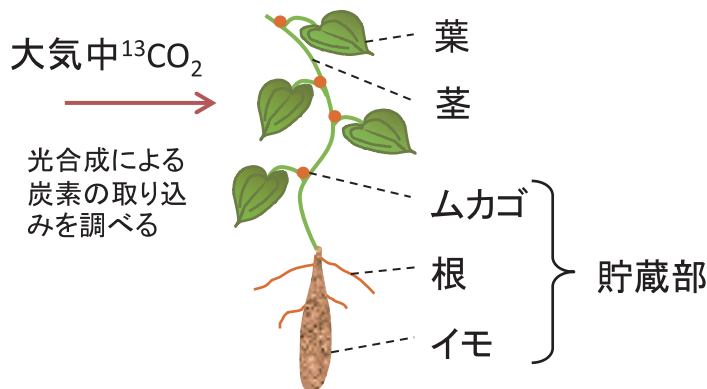
排出放射性物質影響調査 (青森県委託事業) の紹介

ナガイモへの放射性炭素 (^{14}C) の移行性と残留性を調べています

再処理施設の稼働に伴って大気中に放出される放射性の炭素14(^{14}C)の一部は、二酸化炭素($^{14}\text{CO}_2$)として光合成を経て植物に取り込まれる可能性があります。当調査では、青森県の主要な農作物であるナガイモを対象として放射性炭素の移行性と残留性を調べています。

調査には、放射線を出さない炭素13(^{13}C)を用いています。ポットで栽培した成長段階の異なるナガイモを特別にデザインされた植物栽培装置(写真)に設置し、炭素13を含む二酸化炭素($^{13}\text{CO}_2$)を送り込みます。その後、ナガイモの各部に含まれる炭素13を分析することで、大気中の二酸化炭素がナガイモの葉から取り込まれて収穫する部分(イモ)に移行する様子を明らかにすることができます。

調査の結果、ナガイモの成長の各段階で大気中から光合成で取り込まれる割合が明らかになるとともに、栽培期間後半に取り込まれた炭素が比較的イモに移行しやすいことなどが明らかになり、ナガイモ中の放射性炭素をより正確に評価できるようになりました。



ナガイモ各部の名称と葉からの二酸化炭素吸収



植物栽培装置による実験の様子

調査の内容や成果等はホームページ (<https://www.aomori-hb.jp/>) に掲載されています。